

八戸工業高等専門学校同窓会

「北辰会」 会報

第50号 (2024)

第50号の目次

学校の風景・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	私のお仕事紹介します・・・・・・・・・・	5
会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2	学内ニュース・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
校長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3	コースからのメッセージ・・・・・・・・・・	14
支部会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4	令和6年度 事務局短信・・・・・・・・・・	16



【同総会から学校へ寄付を行いました】
記事は12ページ

高専制度創設60周年記念事業「高専の森」
八戸高専創立60周年記念

樹名 ブルーベリー (ツツジ科スノキ属)
学名 Vaccinium corymbosum
実りある人生 知性 信頼

寄贈 八戸工業高等専門学校同窓会

2023年10月吉日

会長あいさつ ~アナログからデジタルへ~



【同窓会会長 館山 勝 (Z6)】

2021年9月、行政サービスのデジタル化の遅れへの早期解消を目指して、「デジタル庁」が創設されました。スマホ普及率が90%を超え、マイナンバーカードに電子決済、デジタル通貨、デジタル書籍と、デジタル社会の実現に向けて、急ピッチで世の中が変わろうとしております。同窓会においても時代に合わせて効率的に運営するためには、アナログによる運営からデジタルへの変革が必須と考えております。

一方、デジタル化の弊害として、高齢者のデジタルデバインドが問題視されております。幸いなことに我が北辰会会員は1期生においてもまだ70代後半であり、ワープロ、パソコン、インターネットと情報化社会を駆け抜けた会員がほとんどであります。加えて全員が工学系であり、問題は少ないと考えております。

北辰会では、同窓会50周年の記念事業として2018年にHPの抜本改定を行い、これをプラットフォームとして、同窓会運営のデジタル化を順次進めております。以下にこれまでの成果と、今後の予定について報告いたします。

<会費等のオンライン決済>

会費や寄付等の支払いに関して、従来の郵便為替や銀行振り込みに代えて、HPからのクレジットカード払いを可能としました。また、これに合

わせて世代別終身会費の設定を行いました。これらの施策により、例えば、施策導入前の平成28年度決算では、卒業生以外のOBによる会費納入者は僅か1名だったのに対して、導入後の令和5年決算では、OB納入者が114名に増えました。年度により若干差があるものの、会費徴収額が2~3倍に増加しました。

<会員ページの設置>

HPに会員ページを設置しました。会員IDでログインすることにより、住所やメールアドレスの変更、自身の会費の納入状況の確認が出来るようになりました。利用者はまだ限定的ですが、周知されることにより郵送による住所確認などの事務手間の軽減が期待できます。既にHPの写真カレンダー機能により、会員による情報発信が可能となっておりますが、これに加えて会員ページには、会員同士の連絡ページや、総会や理事会・評議会資料などの公開ページも順次、設置していきたく考えております。

<会員名簿のデジタル管理システム>

現在、同窓会名簿のデジタル管理システムの構築に着手しております。従前の名簿データに加え、オンライン決済時の入力データや、会員ページで更新された最新のメールアドレスを順次収集しております。メーリングリストの充実により、郵送によるイベント情報や会費徴収の依頼をメール配信に切り替え、郵送コストの削減を目指しております。また、名簿CDに代えて、会員ページから会員検索を行えるように改修する予定です。

以上、国や企業が取り組んでいるDxには遠く及ばないものの、北辰会においてもデジタル化を進め、機敏に情報発信を行っていきたくと考えております。加えて、同窓会事務を引き受けて頂いている学校事務局の負担を軽減し、効率的かつ効果的な活動を目指したいと考えております。会員の皆様には、何卒、ご理解、ご協力の程、お願いいたします。

校長あいさつ



【特別会員・学校長 土屋 範芳】
(つちや のりよし)

昭和 38 年に創立された本校は、昨年度創立 60 周年を迎えました。人間に例えるならば還暦となったわけで、本年度は生まれ変わって 1 年目ということになります。設立当時と現在とでは社会情勢や工業を取り巻く環境も大きく変わってきておりますが、高専が社会に果たすべき役割や高専への期待はますます高く、また多様化してきております。私自身は、学校長として 2 年目となります。学校行事も一巡いたしました。それを踏まえて、現在の八戸高専の状況をお伝えしたいと思います。設立当初の機械工学科、電気工学科、工業化学科、5 年遅れて設置された土木工学科の 4 学科体制でしたが、現在は、産業システム工学科として統合し、それを機械・医工学コース、電気情報工学コース、マテリアル・バイオ工学コース、環境都市・建築デザインコースに分けています。1 年次は、コースごとでない混合学級編成を行い、2 年生からコースごとに分かれます。どのコース定員も 40 名で、1 学年 160 名です。青森の県立高校の定員は削減方向にありますが、八戸高専は入試の方法を改善するなどして、優秀な学生の確保に努めて設立当初と同じ定員を維持しております。2022 年度より開始した国際的エンジニア育成特別選抜(9 月に試験実施)では倍率が 3 倍程度となっております。女子学生の割合は全体で約 28%、また本科から専攻科、他大学への編入者の過去 5 年間の平均は 45%であり、専攻科から大学院への進学率は 46%となっており、徐々に進学意欲は高くなって

きています。特に専攻科からは研究力の高い大学院への進学が増加してきています。

同窓生との接点として「一般財団法人はちのへ科学技術研究会」を設立し、卒業生の皆様の再就職支援を行っています。本年度から本校の教員であった大久保恵先生(前職は小山高専校長)にご参画いただき、地元企業との情報交換、再就職希望者との相談などを進めていただいております。再就職を希望される卒業生の方は、「一般財団法人はちのへ科学技術研究会」(<https://hachinohe-kagaku.jp/> 八戸高専内 TEL:0178-38-6251)にご相談ください。また、X(旧 Twitter)でも情報発信を行っております。こちらは、学校行事や八戸市のイベントなど少しくだけた親しみやすい情報が投稿されております。さらに、LINE グループでの情報発信も進めております。是非、「一般財団法人はちのへ科学技術研究会」の web サイトから、各 SNS の財団アカウントにアクセスください。令和 5 年度末をもって、河村信治教授、松本克才教授の両先生が定年退職されました。長年のご尽力にあらためて感謝申し上げます。なお、両先生とも引き続き、嘱託教授として本校の教育に携わっていただいております。この他、5 年度中に退職された先生は、横田実世教授、川端良介准教授、大里辰希助教、小船茉理奈助教、庭瀬一仁教授、ガルブレス・ハンナ特命助手、さらに角館俊行助教は仙台高専(名取)へ転出されております。令和 6 年度に採用された方は、植村望准教授(総合・体育)、清川紘樹助教(総合・英語)、矢吹文乃助教(総合・国語)、松橋瑠偉助教(総合・体育)、丸岡大佑助教(マテリアル・バイオ)、北村洋樹助教(マテリアル・バイオ)、重浩一郎准教授(環境都市・建築)の各先生方です。また、本間哲雄先生が教授に昇任されました。今後のご活躍を祈念しております。

同窓会の皆様には、今後とも本校発展のために一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

支部会報告

関東支部より

【八戸高専同窓会関東支部長 戸田 和孝】

八戸高専同窓生の皆様には日々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

同窓会関東支部では、2023年度はサロン会を1回開催いたしましたので、その内容を以下にお知らせいたします。

◎第42回サロン会 2023/10/14 開催

東京・東日本橋の小料理店の会議室にてE科7回生の新山清己さんより、前半「東日本大震災の被災地を見たもの(岩手県大槌町)」と後半「風力エネルギーの利用」という二つのタイトルでお話ししていただきました。

前半の大震災のお話では、たまたま大震災前日(2011/3/10)に撮影した大槌町中心部及び周辺の写真と、被災後の被災状況を対比して分かるように資料を作成して頂きました。震災翌日の写真には、津波で壊滅状態の大槌町中心部に、まだ火災の煙が上がっているのが写っているなど、生々しい状況に、参加者一同驚きを隠せませんでした。

また、約90年前の昭和8年3月に発生した三陸大津波後に、設置された古い石碑の写真には、

「大地震直後には津波が来るので高い所に逃げよ」との旨が刻み込んであり、年月を経ても変わらぬ教訓であることを再認識致しました。

後半では、新山さんが現在仕事されております風力発電についてお話ししていただきました。風力発電の理論、構造、メンテナンス、それと実際に発生した事故例についても説明して頂きました。資料の中の世界の国別風力発電設備の稼働状況では、2022年の全世界稼働率を100%とすると、中国40%、アメリカ16%、ドイツ7%に対して、日本はわずか0.5%と少なく、今後一層の努力が求められていることが分かりました。

今年度も、関東近県の同窓生が主な対象にはなりますが、サロン会をメインとした活動を継続いたしますので同窓生の皆様のご協力をお願い致します。

以下のメールアドレスにご連絡頂ければ、折り返し活動情况等をメールにてお知らせ致します。

tod.kaz@r2.dion.ne.jp



【第42回サロン会の様子 (2023/10/14)】

私のお仕事紹介します

『将来の夢は

自分のアイデアが製品化されること』

キヤノン株式会社
M-53 回生 井上 芽維 さん

私は、キヤノン株式会社の下丸子本社に勤めており今年で5年目になります。弊社は、主に精密機器の製造を行っています。映像機器や事務機器は勿論のこと、近年は半導体露光装置や医療機器にも力を入れています。その中でも、私は入社時からミラーレスや一眼レフカメラのレンズ製品で主にオートフォーカスに使用されている、超音波モータ（通称 USM）のメカ開発設計を行っています。弊社が初めて超音波モーターを実用化し、以来40年受け継がれてきた歴史のある技術です。要素検討から量産検討まで幅広く携わっているため、2D/3D 設計、組み立て、測定、応力計算等、高専で学習したこと全てが仕事をする上で役に立っています。

私の中で、1番印象に残っている出来事は、入社1年目の時に、自分で要素設計から行い開発したモーターの試作品が目の前でスムーズに動いたところを見た瞬間です。頭の中にあったイメージが実際に形になったことに感動を覚えました。

最近、研究開発部門からよりカメラ製品に近い部門に異動になったため USM だけに留まらず、カメラレンズのメカ設計にも今後挑戦したいと考えています。私の夢は、自分のアイデアが製品化されることです。夢の実現のために今後もプライベートも充実させつつ、頑張りたいです。



『「モノづくり」のたのしさ』

株式会社デンロコーポレーション
E-57 回生 中村 孔樹 さん

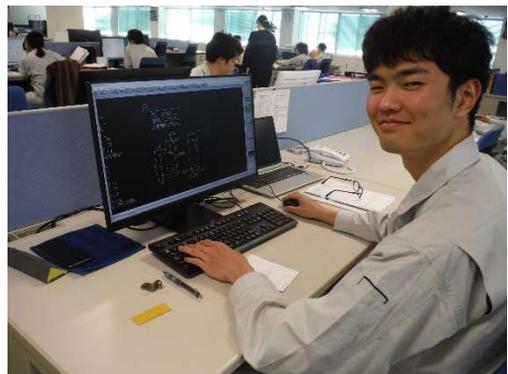
私は高専卒業後、高専の恩師とのご縁がありデンロコーポレーション（デンロ）に入社しました。

デンロは金属材料を加工して鉄塔などの製品を生み出す会社で、昭和21年に創業し現在78周年を迎えます。デンロは主に以下の3つの部門に分かれて事業を展開しています。

- ① 送電・通信用鉄塔の設計・製作を行う、鉄塔部門
- ② 錆びにくいようメッキ処理を行うめっき受託加工部門
- ③ 金属材料を加工する、独自の産業用機械設備・装置のメカニズムを考え設計、製作するプラント部門

私は現在、大阪府八尾市にある八尾工場でプラント部門の研修生として働いています。一人前の設計者になるべく CAD はもちろんのこと、強度計算や応力解析・原価見積もりや納期の決定などを学んでいます。プラント部門で製造する製品は、客先の要望によって仕様を決めるなどカタログがなく、ほとんどがオーダーメイドであり、モノづくりの魅力がとても詰まった仕事です。

まだまだわからないことだらけですが、とても楽しく、やりがいのある仕事です。



学内ニュース

定年退職教員のご挨拶

「八戸高専の16年間」



【マテリアル・バイオ工学コース

松本 克才 先生】

平成 20 年 4 月に東北大学から八戸高専に異動し、気づけば早 16 年、定年退職の年齢になっていました。赴任前は、大学と高専の違いを認識していたつもりですが、高専は思った以上に学生に近い職と認識し、学生の名前と顔を覚えるのに必死でしたが、慣れと老いというものは怖いもので、最近は顔だけの認識に近いものになってしまいました。大学では全体の学生との距離はさほどなく、研究室の学生とは深い良い関係を築けており、研究活動に結びつけていました。八戸高専の研究室でも全国区の学会活動に積極的に学生に参加してもらうことができました。また、お台場のビッグサイトでは八戸高専のブースを設け、最先端の企業技術者へ専攻科生に説明をしてもらい、とても好評だったのも良い思い出です。

さらに、大学時代に培った縁を頼りに、大学教員や企業の方々に本校までお越しいただき、色々なお話をさせていただいたのは、学生への良い刺激になったと思っています。そのおかげとは言えないかもしれませんが、当研究室から、東北大学、東京工業大学、北海道大学への進学者が続出したのは、校長先生のお力もあったかと思いますが、良い結果に結びついたらと自負しております。我々教

員の役割は、学生の才能を伸ばし、将来、活躍できる環境を提供することであり、そのことが何より嬉しいことと感じています。

高専では、寮務委員から始まり、2 年目は寮務委員とロボコン担当、それ以降は、5 年担任、学生主事補、4 年担任、学科長、コース長、地域テクノセンター長と務めさせていただき、最後の 4 年間は寮務主事をさせていただきました。今思えば、どの役職も楽しいものであったと感じています。

最初の寮務委員では、菅原先生が主事、濱田先生、吉野先生が主事補と、今思えば素晴らしいスタッフで、学科を離れ、楽しく交流させていただきました。ロボコンは、担当した年に全国大会に進出し、両国国技館まで深夜バスに乗ったことを覚えています。5 年担任時には、個々の学生の進路相談に乗り、学生主事補の際は、学生会長が、毎日、昼休みに私の研究室にやってきて、話し合い、良い信頼関係を気づけました。4 年担任時には、今では当たり前になりましたが、見学旅行で東京工業大学を訪問させていただきました。学科長では、学生の進路支援とともに、運営委員となり、学科の皆様のご協力の下、学校との繋ぎ目役を行えました。地域テクノセンターでは、県や市を始め、財団や大学、外部との接点が多く、教職員の皆さまのご協力で、本校の PR に努めることができました。そして最後に寮務主事、主事補の先生はもちろん、寮務委員、寮事務、総代を始めとする寮生に恵まれ、こんな私でもなんとか定年まで勤めさせていただくことができ、感謝しております。

定年後は嘱託教員としてお世話になる予定です。

最後に、八戸高専ならびに本同窓会の益々のご発展を祈念し、定年の挨拶とさせていただきます。

「24年間のふりかえり」



【総合科学教育科 河村 信治 先生】

2000（平成12）年4月に社会科教員として本校に着任し、24年間勤めさせていただきました。社会科、といえば当然文系科目のイメージでしょうが、私は（古い話になりますが）高校理系クラスから大学学部は理学部（地理学科）、大学院も都市計画・都市工学系の研究科で、区分は生粋の？理系育ちです。もともと地理学とか都市計画といった分野は、文理融合の境界的な性格の領域といえますが、そうでなくても社会との関わりが大きい工学の分野では、文理両方のセンスが必要とされます。専門的な学識はともかく、ひとりひとりの教養は、どちらかの枠に当てはめて良しとされるものではありません。そんなことを意識しながら、1年生の「地理」や高学年生の「科学技術社会論」「環境論」「メディア社会論」（現在はシラバスに無い科目も）等の科目を担当してきました。毎年3学年×全クラス以上の授業を担当しており、なかなか個々の学生さんの名前と顔を覚えられないのは自分の不徳の致すところではありますが、残念に思っています。卒業生の皆様には、どこかでお会いした際には、お名前・学科・卒業年など名乗っていただけると幸甚です。

文系・理系の区分以外でも私のこれまでの立ち位置は、教育・研究では一般と専門に跨り、研究の関心は自然環境と社会（都市）に跨ってきました。

そもそも本校赴任前の私の仕事は、15年間ほど写真（企業広告、自然環境）を主たる生業としていました。バブル崩壊後に仕事が激減した後は兼業的に公立の環境学習施設に特別職の環境教育トレ

ーナーとして勤めたりしました。高専教員として珍種であったことは自覚しています。

また八戸に来る前は、生まれ育ちは地域色も地縁も希薄な東京郊外、職場は混雑と喧騒の都心部でした。人口流動の激しい都市周縁で、今は知った顔も遊び場の痕跡も残っていない、という土地柄の反動で環境教育やまちづくりに関心を持ってきたともいえます。地域の個性やコミュニティの力を感じる程好いスケールの地方都市八戸に出会えたのは、私の人生にとって幸せな転機でした。

2000年代（40代）には、魅力的なのに人口減少と衰退に歯止めがかからない地方都市の課題に向き合い、八戸の中心市街の活性化に関わる活動に学生たちと一緒に参加し、地域や学会での同志の方々と交流を深めることができました。

2010年代（50代）では東日本大震災に遭遇し、平時のまちづくりに加えて、震災復興というフェーズで、新たに他大学の防災関連研究者や学生と本校学生たちとの交流、とくに岩手県野田村での継続的な復興支援活動と共同研究が、私自身の研究教育活動の主軸となりました。

歳を重ねる中で、いつしか学校運営でも責任を負う立場をなり、寮務主事、学生主事、相談室長をそれぞれ3年間務めさせていただきました。東北地区高専体育大会やロボコン東北大会を主管する経験のほか、日頃の学寮運営や学生指導の課題について他高専の主事らと共感を交えて熱く語り合ったことも思い出深い貴重な経験でした。一方では学生に「寄りそう」ことの難しさを思い知らされた経験もありました。

あらためてふりかえれば学校内外で、学生・教職員・研究者・地域の多くの皆様との出会いに恵まれ、自分なりに納得のいくキャリアを重ねていくことができました。どれだけ感謝の言葉を口にしても感謝しきれない気持ちです。それゆえ再雇用勤務期間はもちろん、ボランティア活動も含め、まだ当分この地域のために何かしていく所存です。引き続きよろしく願いいたします。

新任教員紹介

【総合科学教育科 准教授 植村 望 先生】



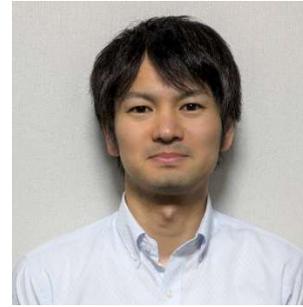
はじめまして。本年4月より総合科学教育科に着任いたしました植村望と申します。私の出身は青森市です。八戸市での生活は初めてのため、毎日様々な発見があり、とても新鮮な気持ちで過ごしています。先日、初めて館花岸壁朝市に行きました。夜も明けぬ時間帯にも関わらず、大勢の人が行き交い、岸壁は熱気に満ち溢れていました。これから八戸市の魅力を探ることが楽しみのひとつです。

前職では、弘前大学において、大規模健診（岩木健診・いきいき健診）、QOL 健診、青森県医師会健やか力推進センター事業における健康教育に携わって参りました。私の研究テーマは「健康」です。

青森県は全国一の短命県です。生涯にわたり健康で豊かな生活を実現するためには、若年期から健康教育によりヘルスリテラシーを高めることが重要であると考えています。

本校学生への体育と健康教育を通して、学生のみならず青森県民の生涯にわたる健康（Well-being）に貢献できるよう、微力ながら尽力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

【総合科学教育科 助教 清川 紘樹 先生】



初めまして。4月に着任した清川紘樹（ひろき）と申します。私は高校卒業までここ八戸市で生まれ育ちました。八戸高専の卒業生ではありませんが、本校の近くにある日赤病院で生まれ、本校のすぐ隣にあるウルスラ幼稚園に通っておりました。実家もこれまた本校の近くです。

英語教員として採用されましたが、これまで英語習得に限らず様々な経験をしてきました。生態学者を目指したり（野生の生き物が大好き!!）、システムエンジニアとして働いたり、オーストラリアで働いたり大学院留学をしたり等々。そうした様々な経験を通して見てきたこと感じてきたことを、将来を担う学生たちに伝えていこうと思います。

私の英語教育は、学生が英語を好きで居続けられるようなものにしたいです。英語の習得にはとにかく長い時間が必要であり、英語が好きでなければ英語に長く触れることが苦痛となります。英語が好きになるきっかけを授業中に多く与え、授業以外でも英語に触れたい学生が増えればよいなと思っています。

八戸高専には心優しい学生が非常に多いです。そんな学生たちに寄り添い、皆の将来にとって少しでもプラスになるような教育を心掛けます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

【総合科学教育科 助教 矢吹 文乃 先生】



4月に総合科学教育科に着任いたしました、矢吹 文乃 (やぶき あやの) と申します。科目は国語科を担当します。

私は昨年度に広島大学大学院文学研究科の博士課程後期を修了しました。専攻は日本近現代文学で、主な研究対象は寺山修司 (1935-1983) です。寺山修司は青森県出身の作家です。あまり知名度の高い作家ではないですが、彼の残した言葉のなかには広く知られているものがあります。例えば、「書を捨てよ、町へ出よう」という言葉は寺山が日本に広めたものです。

なにかを学ぶときには書物で知識を得るだけでは不十分で、ときには町へ出て人と出会わなければ真の学びには繋がらない。それが「書を捨てよ、町へ出よう」の意味です。この言葉は“生きた学び”とはなにかについて考えさせてくれます。

じつは、文学作品を面白く読み味わうことは、書物の世界に留まっているだけではできません。作品と出会い、作者と出会い、時代と出会い、文化と出会うことで、文学はようやく生きた学びになります。作品についてクラスメイトと語り合うことも、もちろん一つの出会いと呼べるでしょう。国語の授業は出会いの連続です。

これから学生のみなさんとともに、多くの出会いが生まれるような授業を作っていく所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

【総合科学教育科 助教 松橋 瑠偉 先生】



はじめまして。令和6年4月1日付けで着任しました松橋瑠偉 (マツハシルイ) と申します。総合科学教育科の体育科に所属し、保健体育などの授業を担当させていただいております。

私は青森県八戸市出身で、10年ほど前に本校の機械・医工学コースの前身である機械工学科に在籍し、学校生活を送りました。このたびご縁をいただき、母校である八戸高専に戻ることができ、大変喜びを感じております。

私の専門種目はラグビーフットボールです。高専を卒業した後、鹿屋体育大学へ進み、専攻を変更しました。筑波大学大学院を修了後、今年3月までは新聞記者として働いていました。少し変わった経歴を持つ高専出身の体育教員ですが、これまでの経験を生かしながら本校のお役に立てればと思っております。

教育現場に立つのは初めてですので、何かと至らない点もあるかと思いますが、日々研鑽を積みながら、学生の成長をサポートできるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【産業システム工学科 マテリアル・バイオ
工学コース 助教 北村 洋樹 先生】



令和6年4月1日付けで着任した北村洋樹と申します。私は本校のマテリアル・バイオ工学コースの前身である物質工学科を2011年に卒業、専攻科物質工学専攻を2013年に修了しました。本校の卒業式を数日後に控えていた2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。当時は災害廃棄物や原子力発電所の事故などの影響を受け、環境問題への関心が高まりました。専攻科在学中には、環境問題の中でも循環型社会を形成するための廃棄物リサイクルに興味を抱きました。専攻科修了後は東京工業大学大学院において、廃棄物リサイクルを「理工学から社会科学までを必要とする総合科学」と捉える研究室に在籍し、博士号を取得しました。博士号取得後は国立環境研究所において、有害廃棄物の適正処理・処分方法に関する研究、前職の株式会社ジェイテクトではカーボンニュートラルやCO₂回収に関する研究開発に携わりました。

ご縁があって教員として戻ってくることになりましたが、教育に携わるのは初めてとなります。私自身が成長することができた母校で、次は後輩でもある本校学生の成長に貢献できるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。私がこれまでの活動を通して感じてきた学問の楽しさを八戸高専の学生にも伝えてゆく研究／教育活動に邁進してまいります。

【産業システム工学科 マテリアル・バイオ
工学コース 助教 丸岡 大佑 先生】



2024年4月に着任いたしましたマテリアル・バイオ工学コース助教の丸岡大佑と申します。出身は徳島県であり、県内の阿南工業高等専門学校の機械工学科を卒業しました。その後、長岡技術科学大学に3年次編入し、2013年3月に博士課程を修了、博士号を取得しました。博士号取得後は横浜国立大学で博士研究員、その後東北大学で助教を務めておりました。

専門分野は無機材料工学および高温物理化学であり、先進セラミックスおよび金属製錬プロセスの研究開発を進めてきました。八戸市には金属生産業が盛んな地域の1つであり、社会実装を念頭に、地域の発展も含めた高専ならではの研究開発を進めていきたいと考えています。

授業は、無機化学や触媒に着目した反応化学を教えています。これまで主に学側の研究を主体とした職務に従事していましたが、最先端の研究開発事例も交えながら、学生の興味とやる気を引き出せるような授業を目指していきたいと考えています。

この度縁あって高専の教育研究に携わる機会を頂きました。社会に必要とされる技術者養成のため、教育および研究を推進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【産業システム工学科 環境都市・建築
デザインコース 助教 重 浩一郎 先生】



本年4月に着任しました重（しげ）浩一郎と申します。出身は兵庫県なのですが、東北での生活が長くなり普段は大阪弁を話すことはありません。

本年3月までは岩手県職員として環境政策、県民生活政策、市町村財政、ILC（国際リニアコライダー）推進、教育委員会（学校教育）、保健福祉（医療・子ども子育て政策）などさまざまな行政課題に取り組んできました。

県職員の仕事をする一方で、個人的な活動として、脱炭素実現に向けた研究活動を続けておりましたが、そのようななかで、このたび八戸高専の一員に加えていただくことになりました。

今後は、都市計画など土木計画分野の教員として学生の教育研究活動をサポートしていくなかで、特に、環境省、岩手県、久慈市と様々な行政機関で勤務してきた経験を活かし、授業や様々な機会を通じて学生に公務員のやりがいを伝えていきたいと思っています。

また、これまでの仕事での経験や人とのつながりを活かして、ふるさと青森県や八戸地域のお役に立てるよう微力を尽くしたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度後半の 学内ニュース

アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2023（高専ロボコン）

令和5年10月8日（日）に秋田県立武道館で開催されました。競技課題は「もぎもぎ！フルーツGO ラウンド」で、ロープや角材の障害物を乗り越え、高いところにあるフルーツを収穫する競技です。

競技の結果、A、Bチームともに残念ながら予選敗退でした。また、Aチームは特別賞（東京エレクトロン株式会社）を受賞しましたが、全国大会には選出されませんでした。来年こそは期待したいと思います。



【 ロボコン 2023 】

同窓会から学校への寄付について

八戸高専創立六十周年記念として、同窓会から30万円相当のブルーベリーの苗を贈呈しました。令和5年10月28日(土)に記念植樹式が開催されました。同窓会からは瀧本副会長が参加し、祝辞を述べられました。

また、卒業式にあたり卒業記念品として、北辰会ロゴ及び同窓会 HP QR コード入りモバイルバッテリーを卒業生に贈呈しました。



【 記念植樹式にて 】

令和6年度前半の 学内ニュース

第61回 東北地区高専体育大会

令和6年度の東北地区高専体育大会は、7月6日(土)～7月7日(日)の期間で開催され、八戸ではテニス競技・卓球競技が行われました(ラグビー競技は10月19日～22日開催)。

団体の部では、卓球部が男女ともに団体優勝し全国大会への出場切符を手に入れました。

個人の部では、陸上競技部・卓球部・テニス部・剣道部・水泳競技部の選手達が優秀な成績を残し全国大会への出場切符を手に入れました。



八戸高専 HP

令和6年度後半各種大会日程等

第58回 全国高専体育大会

令和6年度の全国高専体育大会は、旭川高専を主管校として開催されました。各競技の開催日程および結果につきましては、全国高等専門学校連合会のHPよりご確認ください。



全国高等専門学校連合会

本田宗一郎杯 Honda エコマイレッジチャレンジ 2024 第43回 全国大会 (エコラン)

10月12日(土)～13日(日)

会場：モビリティリゾートもてぎ

(栃木県茂木町)

第37回 アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2023 (高専ロボコン)

競技テーマ：『ロボたちの帰還』

東北大会：10月20日(日)

会場：鶴岡市藤島体育館

全国大会：11月17日(日)

会場：両国国技館



高専ロボコン

第35回 全国高等専門学校 プログラミングコンテスト (全国高等専門学校連合会)

メインテーマ：「まほろばの地で古都ロジ－開花」

本選：10月19日(土)～20日(日)

会場：サンドーム福井

(主管校 福井高専)

課題部門「ICTを活用した環境問題の解決」

自由部門「自由なテーマで独創的な作品」

競技部門「シン・よみがえれ世界遺産」



高専プロコン

第21回 全国高等専門学校 デザインコンペティション デザコン2024 in 阿南

メインテーマ：「繫」

本選：11月2日(土)～3日(日)

会場：阿南工業高等専門学校

(主管校 阿南高専)



高専デザコン

コースからのメッセージ

機 械 ・ 医 工 学 コ ー ス

コース長 村山 和裕

【進路状況】令和5年度機械システムデザインコースを卒業した43名の進路は、就職27名、進学15名、その他1名で、3年ぶりに就職者数が進学者数を上回りました。就職者のうち県内就職者数は2名(7%)でした。進学者のうち4名は専攻科に進み、更に2年間、本校において勉学に励みます。専攻科の修了生は7人で、就職3名、大学院進学が3名、その他1名でした。なお、求人倍率は本科28倍、専攻科235倍と良好で、コロナ禍の影響はなくなったようです。令和6年度は、本科39名、専攻科5名が卒業修了予定です。本科は23名が就職希望、16名が進学希望と、就職希望者が多くなっています。専攻科は3名が就職希望、2名が進学希望です。

【終わりに】2020年度からは、オンライン授業が断続的に繰り返され、学生が楽しみにしていた行事等も中止や規模縮小を余儀なくされていましたが、ようやくコロナ禍も明けて、本校にもコロナ禍前の日常が戻りつつあります。皆様方におかれましては、これまでと同様に本コースに対するご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

電 気 情 報 工 学 コ ー ス

コース長 野中 崇

【進路状況】令和5年度は、本科卒業生42名中17名(40%)が就職、23名が(55%)進学、その他2名でした。進学者のうち、専攻科には10名進学しました。専攻科修了生7名中2名が就職、5名が進学し、東北大学大学院や筑波大大学院などに進学しました。本科求人数788社、本科求人倍率46.4倍、専攻科求人数730社、専攻科求人倍率365倍となり、求人数は安定して良好であり、エンジニア不足もあり、高専生に対する産業界からのニーズはますます高くなっている状況です。令和6年度は、本科44名卒業予定、専攻科5名修了予定で、本科は就職希望者20名、進学希望者24名、専攻科は就職希望者3名、専攻科進学希望者2名です。

【本コースの状況】4月に角館俊行先生が仙台高専名取キャンパスへ、大里辰希先生が兵庫県立大学へ転出され、また、7月に佐藤健先生が小山高専に転出されました。

【最後に】卒業生・修了生の皆様方には、多方面に渡りご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。皆様方のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

マテリアル・バイオ工学コース

コース長 齊藤 貴之

【進路状況】令和5年度マテリアル・バイオ工学コース卒業生は42名（男20女22）で、就職17名（男9女8）、進学24名（男11女13）、その他1名（女1）でした。専攻科修了生は5名（男2女3）で、就職1名（女1）、進学4名（男2女2）でした。令和5年度は本科・専攻科ともに進学の割合が高くなり、全国各地の大学に進学しています。また就職では、求人状況が良く、待遇が良い大手企業の希望が増えました。一方で、地元就職者は大きく減り本科・専攻科あわせて2名です。令和6年度の本科5年生は34名（男18女16）で、就職希望12名（男6女6）、進学希望22名（男12女10）です。専攻科2年生は8名（男6女2）で、全員進学希望です。今年度も進学希望が多くなっています。

【最後に】令和6年度は本科3年にラオスの留学生2名が入学し、本コースの留学生は10名で、全コースの中で留学生が一番多いです。令和5年度末には、松本克才先生が退職され、小船茉理奈先生が異動されました。令和6年度からは、丸岡大佑先生と北村洋樹先生が着任し、松本先生は嘱託教授として授業を担当されています。10月の高専祭では、コース展示もありますので、卒業生の皆様もぜひご参加ください。卒業生の皆様には、引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

環境都市・建築デザインコース

コース長 南 将人

卒業生・修了生の皆様には、日頃より本コースへの御支援を頂き、心よりお礼申し上げます。4月より重浩一郎先生が着任されました。前職は国や県及び市の公務員を勤めており、本コースで4月から土木計画系の科目を担当しております。

本コースの今年3月卒業生・修了生の進路について報告いたします。この3月に本コースから、本科卒業生は25名が就職、13名が進学しました。就職の内訳は、公務員が10名、企業就職者は15名であり、鉄道、電力、ガス、水道等のインフラ系企業、ゼネコン、リニューアブル事業等に就職しています。これらのうち、青森県内企業・機関に就職した卒業生は2名でした（R5年3月卒生は2名）。進学者は本校専攻科へ3名、大学が10名でした。また、専攻科修了生は、2名が企業就職で、3名が東北大学大学院進学でした。

今年度の5年生は38名在籍で、就職希望者が20名（内6名が公務員志望）、進学希望が18名です。専攻科修了予定者は4名で、就職希望者2名、大学院進学希望者1名で、留学生は帰国予定です。求人企業との面談や3月の企業内容説明会等で卒業生・修了生と接する機会が多く、現況や思い出話を語る事も多々あります。是非、帰省等で近くにお越しの際には、お気軽に学校にお立ち寄り下さい。卒業生・修了生の皆様からの情報を楽しみにしております。

令和6年度 事務局短信

★ホームページ（HP）について

同窓会のホームページ (<http://www.hachinohe-ct-dsk.jp/>) を開設しております。これに伴い、HP 上からの会費等のクレジット支払いや、住所変更等の書式ダウンロードも可能となっております。なお、当面、従来の郵送による会費納入のお願い、住所調査も併用いたします。

★10年会費（10,000円）納入のお願い

今年は、平成16年度3月卒業（MEC-36回生，Z-31回生）および平成26年3月卒業（MEC-46回生，Z-41回生）の方が10年会費納入期にあたります。また、それよりも以前に卒業された会員の皆さんで、10年前に会費を納入していただいた方々も納入時期となります。HP上から会費をクレジットカードにより支払いをお願いいたします。平成30年度の第25回総会で、永年会費への移行（年齢による永年会費の低減措置あり）および会費の変額が承認されました。具体的には、同窓会HPを参照いただきたいのですが、正会員及び準会員は10年会費として10,000円を納めるものとします。但し、永年会費として一時金（～29歳で30,000円、30～39歳で25,000円、40～49歳で20,000円、50～59歳で15,000円、60歳以上で10,000円）を納めた方は、その後の会費を免除します。また、それ以外の同窓生で未納の方も会費納入をお願いいたします。

（注）今年7月に送付済みの同窓会からの封筒に添付されている宛名シールに星印があります。星印の数が10年会費納入までの残りの年数を示しています。従って、星印の無い方が会費を納入する必要があります。

★住所調査葉書

同窓会名簿データ更新のため、住所や職場の変更のあった方は今年7月に送付済みの住所調査葉書にて同窓会宛に返送してください。また、同窓会では経費削減のため会報発行、事務連絡を電子メールで実施することを検討しています。この機会にE-mailアドレスの記入をお願いいたします。

なお、同窓会名簿で非公開としたい情報は、はがきのチェック欄にレ印を記入ください。ただし、同窓会の会員データとして情報が必要ですので住所等は必ず記載してください。

暫くの間、同窓会から郵便物が届かない方は、ホームページ（HP）から住所記載の書式をダウンロードし同窓会まで郵送により連絡してください。

★会員名簿（令和6年1月版）の注文方法のお知らせ

会員名簿（CD版）を令和6年1月に作成しました。令和6年度版の名簿の購入を希望される方は、HP上からクレジットカードにより代金（送料込1,500円）の支払いをお願いいたします。支払をお忘れにならないようご注意ください。

★令和5年度の事業報告

令和5年度は以下の事業を行いました。

年度	月	項 目
令和5年度	4月	事務局打ち合わせ会議開催（八戸）
	4月	正副会長、事務局打ち合わせ会議開催（メールでの打合せ）
	6月10日	理事会・評議会開催（八戸）
	6月	住所調査実施と総会案内
	10月4日	会報第49号WEB発行
	10月7日	理事会・評議会 総会 懇親会（八戸）
	11月25日	理事会、学校関係者との懇談会（八戸）
	3月20日	新入会員（第57期生）入会式実施（卒業式）

★同窓会からの郵便の送付先について

同窓会からの郵便の送付先を、勤務先にしたい方は住所調査葉書に記載欄を設けておりますのでご利用ください。

★クラス会活動補助金について

同窓会では、クラス会活動の活性化を目的に「クラス会活動補助金」が予算化されております。活動助成金として、10名以上の集会に対し、年1回、2万円を上限に参加者数×千円を支給します。連絡先を明記したクラス名簿およびクラス会報告（写真などを含む）が義務付けられます。

★その他

同窓会は個人情報保護法の規制団体ではありませんが、連絡いただいた情報の管理は厳格に行っております。また、住所等の情報について特別な事情がある場合には同窓会事務局まで連絡してください。